



### <来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
2/15 (月)	+ 100	+ 59,000	+ 59,100	国庫短期証券発行・償還(3M) 年金定時払い 源泉税揚げ	CP等買入 ▲ 900 国債補充供給 + 1,100	CP等買入 + 6,000	日：GDP速報値(4Q) 米：休場日
2/16 (火)	▲ 1,000	+ 2,000	+ 1,000				欧：ユーロ圏GDP(4Q)
2/17 (水)	+ 1,000	▲ 31,000	▲ 30,000	短国発行(5年)			日：貿易収支(1月) 米：FOMC議事録(1月26・27日開催分)、 PPI(1月)
2/18 (木)	▲ 1,000	+ 1,000	トン				
2/19 (金)	▲ 2,000	▲ 7,000	▲ 9,000	国債発行(20年)			日：CPI(1月) 欧：ユーロ圏PMI(2月)

### <インターバンク>

日銀当座預金残高は週初485兆9,400億円から始まった。その後、国債買入オペ・国庫短期証券買入オペなどの増加要因があり、週を通して485兆6,800億円～487兆3,000億円で推移した。無担保コールON物加重平均金利は積み期終盤ということもあり、地銀・大手行を中心としたビッドサイドの調達意欲が強く、前週からの堅調な地合いを継続し、 $\Delta 0.011 \sim \Delta 0.008\%$ で推移した。ターム物は、1月積み期にかかるショートタームは、放出サイドの金融機関が資金運用に目途を付けた先が多く、オファーが薄く閑散としていたが、2月積み期スタートでは1W～2Wを中心に、主に $\Delta 0.015\% \sim \Delta 0.005\%$ の水準で出合いが見られた。来週の主な予定は、国内で15日のGDP速報値公表(2020年4Q)や17日の貿易収支(1月)の公表、19日のCPI公表(1月)があり、海外では17日に米PPI公表(1月)やFOMC議事要旨の公表(1月開催分)などがある。

### [無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	$\Delta 0.087 \sim 0.001$
1M	$\Delta 0.030 \sim 0.030$
2M	$\Delta 0.020 \sim 0.040$
3M	$0.000 \sim 0.070$
6M	$0.000 \sim 0.130$

### <レポ>

足許GC取引は週初 $\Delta 0.09\% \sim \Delta 0.08\%$ の出合い。短国買入オペが実施された10日の取引もレートは横ばいで推移した。その後、短国3Mの入札日となる12日の取引では、 $\Delta 0.085\% \sim \Delta 0.075\%$ と小幅上昇し越えた。SC取引では5年、20年カレント銘柄でレートが大幅に低下する場面が見られた他、2年408～421回債、5年136～145回債、10年330～361回債、20年169～174回債、30年59～69回債、40年10～13回債などに引合いが見られた。

### [オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	$\Delta 0.05 \sim 0.00$
TDB 3M	$\Delta 0.130 \sim \Delta 0.080$
CP 3M	$\Delta 0.04 \sim 0.00$

### <TDB>

9日の6M971回債(8/10償還)の入札は、最高落札利回り $\Delta 0.1027\%$ (前回債 $\Delta 0.0962\%$ )、平均落札利回り $\Delta 0.1048\%$ (同 $\Delta 0.0982\%$ )となり、入札後 $\Delta 0.11\% \sim \Delta 0.109\%$ の出合いが見られた。12日の3M972回債(5/24償還)の入札は、最高落札利回り $\Delta 0.0949\%$ (同 $\Delta 0.0912\%$ )、平均落札利回り $\Delta 0.0979\%$ (同 $\Delta 0.0942\%$ )となり、入札後 $\Delta 0.108\% \sim \Delta 0.105\%$ の出合いが見られた。そのほかセカンダリーでは概ね3M物が $\Delta 0.104\% \sim \Delta 0.102\%$ のレンジ、6M物が $\Delta 0.112\% \sim \Delta 0.11\%$ のレンジ、1Y物が $\Delta 0.129\%$ 近辺で取引された。

### <CP>

今週の入札発行総額は約2,900億円で、週間償還額(約3,400億円)を下回った。発行市場は建設業等で大型案件があったものの、発行社数が少なくやや閑散なマーケットであった。発行残高は先週末の25兆3,555億円から、10日時点で25兆2,542億円に減少した。発行レートは、 $\Delta 0.04\%$ 台～ $0\%$ 近辺での出合いであった。9日に、CP等買入れオペが6,000億円オファーされ、按分レート $\Delta 0.034\%$ ・平均落札レート $\Delta 0.022\%$ (前日：按分レート $\Delta 0.034\%$ ・平均落札レート $\Delta 0.028\%$ )と平均落札レートは前回比上昇した。来週の週間償還額は約4,300億円程度となっている。発行市場は、事業法人の予防的な資金調達ニーズがやや後退傾向にあることから、落ち着いたマーケット展開を予想する。発行レートは、横這い圏内での出合いを予想するが、期越物や希少銘柄については、やや強いマイナス圏内での出合いと思われる。